

授業改善プラン

地域名

南房総教育事務所

学校名

木更津市立真舟小学校

1. 課題（全国学力・学習状況調査結果から）

- 平成30年度 全国学力・学習状況調査において
 - ・本校の児童の実態は、『量と測定』『図形』の領域において県平均を大きく下回り、定着が図られていない。
 - ・算数Bにおいては全体的に無解答が多く、記述問題において解答しなかったり、途中で諦めてしまったりする傾向がある。
 - ・児童質問紙の中で、話し合い・対話についても児童自身の中でできていないと感じていることが多い。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- ・対話的な深い学びを通し、児童の表現力、活用力の向上。→学力向上
 - ・児童の学力向上を目指した、授業改善、指導力の育成。
- を目指して、『量と測定』では特に正答率の低かった5年の「単体量あたり」【別添資料3】、『図形』では学んだ知識や技能を活用、応用する力を必要とする「図形の敷き詰め」を中心として研究を進めていく。

3. 具体的な実践

- 2年生「三角形と四角形」 【別添資料1】
 - ・操作活動を重視し取り組むことを考え、学級を2つに分けてよりきめ細やかな指導ができるようにと考え、少人数指導を行った。
 - ・学習形態を工夫し、少人数指導、TTの特性を生かして授業を展開した。
- 4年生「垂直・平行と四角形」 【別添資料2】
 - ・図形を苦手としているという児童の実態から、図形における操作活動の時間を確保するために指導計画を見直した。
 - ・適用題・練習問題の工夫として、全国学力・学習状況調査の問題を活用し、操作をすることで習熟を図った。
- 高学年
 - ・いろいろな対話の方法で学習に取り組んだ。
 - ◎3人組 ◎前後のグループで問題の解き方を共有 ◎考え揺さぶる場面の設定

4. 成果

- 2年生「三角形と四角形」 【別添資料4】
 - ・少人数指導を行うことで、一人一人について操作を一緒に行ったり、理解に時間のかかる児童を集めて支援をしたりすることができ、理解につなげることができた。
 - ・学習形態を工夫することで、個々に合わせた様々な問題に取り組ませることができた。
- 4年生「垂直・平行と四角形」 【別添資料6】
 - ・指導計画を見直したことで、話し合い活動や発展的な問題を取り入れることができ、より定着を図ることができた。
- 高学年 【別添資料5】
 - ・グループの人数が少ないことで、互いの意見を聞く、話し合いをすることの必要性を感じ、そこから対話的な学びを深め、考えをしっかりと共有することができた。
 - ・教師の考えに対して様々な意見を出し、そこから対話が生まれ対話を通して正答を導き出すことができた。

◆担当指導主事から（南房総教育事務所 指導主事 榎本 正信）

- 全国学力・学習状況調査の分析を踏まえ、取り組む領域を絞り、系統を意識して全学年を通しての授業改善を進めている。教職員がよりよい実践を目指して意見交換を行っており、グループ活動や少人数指導、TTと、児童にとって効果的な学習形態の活用等により、児童一人一人が対話を通じて自分の考えを表現できる姿をめざして共に学ぶことができている。